



— 出品作家 —

片	山	中	池	鳥	小	岩
口	本	原	田	越	林	田
南	大	未	誠	一	聡	榮
	也	央	史	穂	一	吉

トロンプールの現在^{いま}

2025

Tromp-l'oeil, Today

2025.4.12^{Sat} ▶ 2025.7.21^{Sun}

【開館時間】 10:00 ~ 17:00 (入館は 16:30 まで)

【休館日】 毎週火曜日

【観覧料】 一般 500 円 / 割引 400 円 (65 歳以上、障がい者手帳・三溪園入園券をお持ちの方)

【後援】 **NHK** 横浜放送局 ■ 神奈川新聞社

横浜本牧絵画館
Yokohama Honmoku Gallery

〒231-0822

神奈川県横浜市中区本牧元町 40-7

TEL:045-629-1150 FAX:045-629-1151

公式HP : <https://www.yh-g.org/>

関連HP : <https://www.iwata-museum.org/>



漸く見直される「超絶技巧」

「トロンプリュウの現在（いま）2025」展示にあたって

トロンプリュウは、昨今目に耳にする「超絶技巧」に通じます。現代のトロンプリュウは、写実性・迫真性を追求する絵画の伝統を踏まえながら、その高度な技巧をもってのみ表現できる絵画世界を目指します。

当館のメインコレクション作家岩田榮吉（1929—1982）は、その草分け的存在の一人であり、2019年以降隔年開催している当館の展示「トロンプリュウの現代（いま）」は今回が4回目にあたります。

出品作家は前回の6名から、新たに一人の作家を迎え7人となりました。

「トロンプリュウの現代（いま）」に於いては最年少となる作家が加わり、益々フレッシュさに満ちた当館の新たな一面をお楽しみいただければ幸いです。



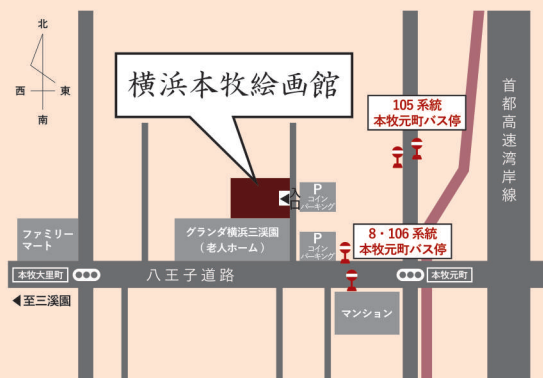
『トロンプリュウの現在（いま）2023』会場風景

横浜本牧絵画館 Yokohama Konmoku Gallery

当館は、横浜の名勝「三溪園」に近く、絵を見ることが好きな方、絵を描くことが好きな方のための、具象絵画を中心とする私設美術館です。

岩田榮吉(1929-1982)

当館は「岩田榮吉」の作品を中心にコレクションしております。岩田榮吉は、東京藝術大学油絵科を首席で卒業し、その後生涯パリで制作を続けた画家です。フェルメールなどに代表されるオランダ17世紀絵画の影響を受ける一方、トロンプリュウ（だまし絵）を始めとして、伝統的な技法を用いた写実的な細密画を多く描きました。



※専用の駐車スペースはありません。（近隣のコインパーキングをご利用ください）
※車いす用の来車スペースが1台分あります。ご利用は事前にご連絡ください。



二次元バーコードにて当館の詳細な情報が見られます

公共交通機関からのアクセス

元町・中華街駅より

（東急東横線・みなとみらい線）

ホーム横浜寄りを上り、4番出口右方「山下町」バス停から横浜市営バス8系統「本牧車庫前」行「本牧元町」下車
所要約30分・徒歩1分

横浜駅より

（JR各線、東急東横線、京浜急行、相鉄線、横浜市営地下鉄）

東口バスターミナルから横浜市営バス8系統・105系統「本牧車庫前」行「本牧元町」下車
所要約40分・徒歩1分

桜木町駅より

（JR京浜東北線、横浜市営地下鉄）

横浜市営バス11番乗場から105・106系統
又は2番乗り場から8系統
「本牧車庫前」行「本牧元町」下車 所要約30分・徒歩1分

根岸方面より

横浜市営バス58・101系統「和田山口」で下車、道の反対側の横浜市営バス4番乗場8・106・105系統「本牧車庫前」行「本牧元町」下車
「和田山口」から所要約10分・徒歩1分

片口南 (2001-) *Minami Kataguchi*
《偶像》 2023 年 油彩／木製、ネル



中原未央 (1986-) *Mio Nakahara*
《記憶 tomato》 2023 年 シクストメディア／キャンバス



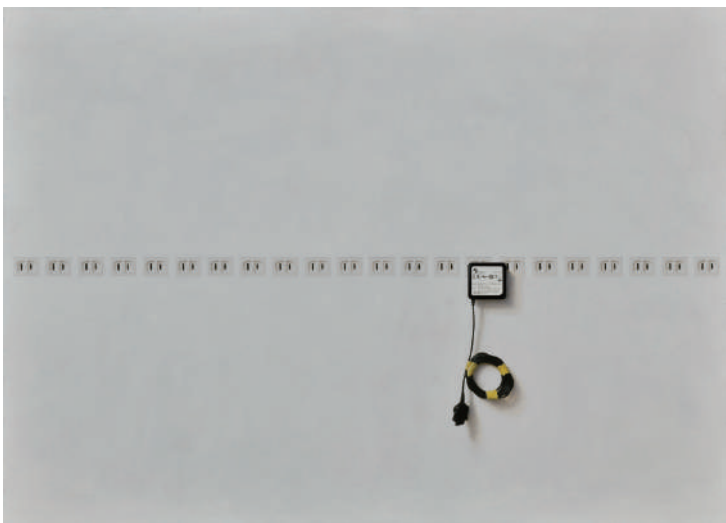
池田誠史 (1971-) *Masafumi Ikeda*
《Colored pencil set》 2025 年 油彩／キャンバス、パネル



鳥越一穂 (1974-) *Kazuo Torigoe*
《II MMXXV》 2025 年 油彩／銅板



山本大也 (1986-) *Daiya Yamamoto*
《充電ステーション》 2014 年 油彩・鉛筆／パネル・
キャンバス・ジェルメディウム・顔料



撮影：株式会社タケアートフォトス

岩田榮吉 (1929-1982) *Eikichi Iwata*
《赤いカーテン（トロンプレイユ）》 1970 年 油彩／キャンバス
横浜美術館蔵（須藤欽一氏寄贈）



小林聡一 (1975-) *Soichi Kobayashi*
《Trompe-l'oeil-Tre colori primari》
2025 年 油彩／パネル



トロンプレイユの現在 いま 2025

Trompe-l'oeil, Today

“トロンプレイユ”とは？

1. トロンプレイユ＝だまし絵 ではない

トロンプレイユ (trompe-l'œil) は、一般に「だまし絵」と訳されますが、この訳をめぐる様々な誤解や混乱が起きています。フランス語の辞書でトロンプレイユ (trompe-l'œil) の項を見ると、「実物と見まがうほど写實的に描かれた絵画」とあり、本来トロンプレイユとは写実表現の追求から生まれた絵画であることがわかります。ところが、「だまし絵」の中には、写實的ではないが、錯覚あるいは心理的誤認を誘引する表現の追求から生まれた絵画も含まれます。つまり、「トロンプレイユ＝だまし絵」ではなく、「トロンプレイユ＜だまし絵」なのです。

2. 見る人のいる現実世界との「つながり」が鍵

とはいえ、「実物と見まがうほど写實的に描かれた絵画」がすべてトロンプレイユということでもありません。何が違うのでしょうか。その違いは、見る人のいる現実の世界との「つながり」にあります。額縁の中などで完結している絵は、描かれた世界と見る人のいる現実の世界との間に「つながり」がありません。これに対してトロンプレイユは、例えば見る人のいる部屋の窓のように、部屋にある調度品のように、あるいは部屋の壁に掛けられた何かのように描かれ、また、額の中の絵の世界から見る人のいる部屋の中に飛び出してきたように、あるいは見る人のいる部屋の中から何かが入り込んでいったように描かれます。